

国分寺市教育委員会・東京経済大学共催「2025 年度第 43 回市民大学講座」

第 1 回 (2025 年 9 月 27 日)

「歌謡曲で聴く戦後の東京、あるいは、記憶から歴史への移行について」

山田 晴通 (東京経済大学コミュニケーション学部教授)

年表の抜書き

昭和 20 年 (1945 年)

- 3 月 10 日：東京大空襲
- 3 月 26 日：硫黄島の戦いの終結、沖縄戦の開始
- 4 月 7 日：鈴木貫太郎 (1868-1948) 首相就任
- 5 月：ドイツの降伏、ヨーロッパ戦線の終結 (VE デーは 8 日、ロシアでは 9 日)
- 6 月：沖縄戦終結 (現在は 23 日が「慰霊の日」)
- 8 月 6 日：広島への原爆投下
- 8 月 8 日：ソ連の対日宣戦布告
- 8 月 9 日：長崎への原爆投下
- 8 月 15 日：玉音放送 (現在の「終戦の日」)
- 8 月 17 日：東久邇宮稔彦王 (1887-1990) 首相就任
- 8 月 30 日：ダグラス・マッカーサー (1880-1964) 元帥の厚木への到着
- 9 月 2 日：戦艦ミズーリにおける降伏文書調印 (VJ デー)
- 8 月 28 日～9 月 5 日：北方領土の占領
- 10 月 2 日：GHQ 設置
- 10 月 9 日：幣原喜重郎 (1872-1951) 首相就任

昭和 21 年 (1946 年)

- 4 月 10 日：第 22 回衆議院議員総選挙 (旧憲法下最後の総選挙、初の男女普選)
- 5 月 1 日：メーデーの復活
- 5 月 3 日：東京裁判 (極東国際軍事裁判) 開始
- 5 月 19 日：飯米獲得人民大会 (食糧メーデー)
- 5 月 22 日：吉田茂 (1878-1967) 首相就任 (第一次)

昭和 22 年 (1947 年)

- 2 月 1 日：二・一ゼネスト中止命令
- 4 月 25 日：第 23 回衆議院議員総選挙 (新旧憲法移行期の総選挙)
- 5 月 3 日：日本国憲法施行
- 5 月 24 日：片山哲 (1887-1978) 首相就任

昭和 23 年 (1948 年)

3 月 10 日：芦田均 (1887-1959) 首相就任

10 月 15 日：吉田茂首相就任 (第二次：以降、第五次まで)

11 月 12 日：東京裁判判決言い渡し

12 月 23 日：東京裁判死刑執行

昭和 24 年 (1949 年)

1 月 23 日：第 24 回衆議院議員総選挙 (新憲法下最初の総選挙)

7 月 5 日：下山事件 7 月 15 日：三鷹事件 8 月 17 日：松川事件

昭和 25 年 (1950 年)

6 月 25 日：朝鮮戦争開戦、以降、朝鮮特需の始まり

8 月 10 日：警察予備隊の設置

昭和 26 年 (1951 年)

9 月 8 日：日本国との平和条約 (サンフランシスコ講和条約) 調印

昭和 27 年 (1952 年)

4 月 28 日：サンフランシスコ講和条約発効、主権の回復

5 月 1 日：血のメーデー

10 月 1 日：第 25 回衆議院議員総選挙

昭和 28 年 (1953 年)

7 月 27 日：朝鮮戦争休戦

=====

昭和 31 年 (1956 年)

2 月：中野好夫 (1903-1985) の評論「もはや戦後ではない」が『文藝春秋』に掲載

7 月：『経済白書』の序文に「もはや戦後ではない」が引用される

<ちなみに、山田は昭和 33 年 (1958 年) 生まれです。>

かつての「戦争を知らない子供たち」 (=われわれ：北山修 (b.1946) による表現) は、
何らかの形で「戦争を知っている大人たち」と対峙していた。

↓

現代の「子どもたち」と対峙する大人たち (=われわれ) は、
「戦争」を知っているのか、知らないのか？
「子どもたち」とどのように対峙しているのか？ / 対峙すべきなのか？

プレイリスト

高倉敏 (1916-1957)・渡辺一恵 (不詳)・近江俊郎 (1918-1992)

「ワカラン・ソング」(1946 年/昭和 21 年 1 月)

作詞：西条八十 (1892-1970)、作曲：古賀政男 (1904-1978)

岡晴夫 (1916-1970)「東京の花売娘」(1946 年/昭和 21 年 6 月)

作詞：佐々詩生、作曲：上原げんと (1914-1965)

…「佐々詩生」は、門田ゆたか (1907-1975) の別名義

藤山一郎 (1911-1993)「銀座セレナーデ」(1946 年/昭和 21 年)

作詞：村雨まさを、作曲：服部良一 (1907-1993) …「村雨まさを」は、服部良一の別名義

笠置シズ子 (1914-1985)「東京ブギウギ」(1948 年/昭和 23 年 1 月)

作詞：鈴木勝 (1916-1971)、作曲：服部良一 … 詞は、服部と池真理子 (1917-2000) が補作

灰田勝彦 (1911-1982)「東京の屋根の下」(1948 年/昭和 23 年 10 月)

作詞：佐伯孝夫 (1902-1981)、作曲：服部良一

美空ひばり (1937-1989)「東京キッド」(1950 年/昭和 25 年 7 月)

作詞：藤浦洸 (1898-1979)、作曲：万城目正 (1905-1968)

美空ひばり「チャルメラそば屋」(1953 年/昭和 28 年)

作詞：ボビー・ノートン (不詳)、奥山麿 (1902-1969)、作曲：ボビー・ノートン

+++++

島倉千代子 (1938-2013)「東京だヨおっ母さん」(1957 年/昭和 32 年 3 月)

作詞：野村俊夫 (1904-1966)、作曲：船村徹 (1932-2017)

初代コロムビア・ローズ (b.1933)「東京のバスガール」(1957 年/昭和 32 年 10 月)

作詞：丘灯至夫 (1917-2009)、作曲：上原げんと

最後に、少々面倒な話を…

記憶から歴史へ

人間の営みは、まず個々の**記憶**として心にとどまり、やがて文字や映像といった**記録**によって形を与えられる。その集積は個人の**経験**を越え、共同体全体が共有する知識や物語へと広がっていく。そこで重要なのは、語り継ぎという形での**継承**である。家族の思い出から地域の出来事、そして国や世界の出来事まで、伝えられ方によってその意味は変容する。しかし、時の流れの中で人々の意識から薄れ、やがて**忘却**されるものも少なくない。すべてが等しく残るわけではなく、取捨選択の過程を経て一部が再構成される。その結果、個々の記憶や断片的な記録は体系化され、学問としての**歴史**へと昇華する。つまり歴史とは、ただの過去の寄せ集めではなく、忘却と継承を繰り返しながら編み直された物語である。「記憶から歴史へ」という営みは、人間が未来を考えるために不可欠な創造的作業なのである。

実は、…

Otto von Bismarck (1815-1898)

Nur ein Idiot glaubt, aus den eigenen Erfahrungen zu lernen.

Ich ziehe es vor, aus den Erfahrungen anderer zu lernen, um von vorneherein eigene Fehler zu vermeiden.

自分の経験から学べると信じているのは、愚か者だけである。

私はむしろ他者の経験から学ぶが、それは自分が過ちを起こすことを避けるためである。

→ 通俗的には、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」として広まったが …

「他人の経験」と「歴史」の間の 連続性 / 飛躍

生き証人の語り～メディア化された情報

歴史は常に書き換えられる

しかし、それは「人々が聞きたい物語を語る」こととは違うはず

「歴史修正主義 (historical revisionism)」という批判は、単なるレッテル貼りか？